

赤木 健介(あかぎ・けんすけ)

1、プロフィール

少年時代から短歌をつくり「アララギ」に投稿。その後社会運動、文化運動に参加した。詩や評論を書き、戦後は新日本歌人協会等に属して、啓蒙的文筆活動を行った。

<生没>

1907(明治 40)年3月2日 ~ 1989(平成元)年 11 月7日

<代表作>

歌集『意慾』

評論集『在りし日の東洋詩人たち』

詩集『交響曲第九番』『赤木健介叙事詩集』

<青森との関わり>

青森市に生まれている。父が司法官であったので、その後、青年期まで15の地方都市を転々とした。

2、作家解説

詩人、歌人。本名赤羽寿。別名伊豆公夫。

青森市で生まれている。父が司法官であったため、その後、地方都市を転々としている。少年時代から短歌をつくり、姫路高等学校時代は「アララギ」に投稿したが、やがて詩作へと移行した。その後、九州帝国大学法文学部に入学したが中途退学。徳島中学在学の大正 10 年頃から社会主義思想に接触し、昭和3年の共産党一斉検挙で逮捕されまもなく釈放されて以後、社会運動、文化運動に参加し、検挙、投獄、釈放を繰り返している。10 年口語短歌の渡辺順三らの「短歌評論」に加わり、17 年に歌集『意慾』を刊行した。この間、世界的視野に立つ異色の評論集『在りし日の東洋詩人たち』を 15 年に刊行している。詩人としては他に、詩集『明日』(昭和 10)『交響曲第九番』(昭和 18)を、戦後には『赤木健介叙事詩

集』(昭和 24)『複眼』(昭和 44)さらに『定本赤木健介詩集』(昭和 61)を刊行している。

3、資料紹介

○『赤木健介叙事詩集』

図書

1949(昭和 24)年3月 25 日

215mm×150mm

赤木健介の第三詩集であり、昭和 11 年から 22 年までの詩が収められている。内容が反戦反ファッショであったため、発表雑誌が発売禁止となったという詩も含まれていることもあり、この詩集を公にすることが詩人の願いであった。